

弁慶鏡井戸

武蔵坊弁慶(1155-1189)は僧兵であり、若くして圓教寺で修行した。その超人的な強さと忠誠心で有名な弁慶は、多くの伝説や舞台のほか、現代のアニメやマンガでも英雄的な人物として登場している。彼はしばしば勇気と忠誠の典型として表現されているが、弁慶はまた、短気で暴力的傾向があることでも知られている。

彼のあまり他人に媚びへつらわない性格は、弁慶のいくつかの劇的な物語を作り出しており、その一つである圓教寺を舞台にしたある物語は、この鏡井戸に関係している。言い伝えによると、信濃坊戒円という若い僧侶が燭台の炭を使って、弁慶が寝ている間に顔にいたずら書きした。弁慶が目覚めたとき、若い僧侶たちが彼のことをあざけり笑っている姿を目にした。弁慶はこの井戸に走って水に映った自分の姿を見た。戒円が弁慶の顔を古い下駄の裏と比較したこと激怒した弁慶は、寺院の建物の大部分を激しく破壊し始めた。この荒唐無稽な話を裏付ける信頼できる歴史的証拠はないが、この事件は圓教寺の最も重要ないくつかの建物を灰にした大火災の原因になったと言われている。